

3 平成30年度学校評価報告書(目標設定)

学校目標	具体的な手立て	評価の観点
教育課程・学習指導 ①新学習指導要領を見据えながら、新しい教育課程を研究し、生徒一人ひとりに丁寧で適切な履修指導を行う。 ②質の高い授業を追求し、生徒の能動的な学習活動を引き出すための授業改善を行う。	①教員向け履修指導研修の資料を充実させ、個々の教員の履修指導能力向上を図る。 ②新教育課程を踏まえた授業改善を行うために、授業研究研修会を充実させる。	①履修指導研修の資料を充実できたか。また、教員の履修指導能力を向上させることができたか。 ②授業研究研修会の内容を改善し、授業に生かすことができたか。 ①②生徒満足度調査の結果を検証する。
生徒指導・支援 ①学校全体で、外国につながる生徒や支援を必要とする生徒に対する、支援体制を推進し、外部資源の効果的な活用を図る。情報共有を密に行う。 ②学校行事や部活動活性化を目指し、生徒の自主性や積極性を養う。	①外国につながる生徒に対して、日本語学習や面談のための支援体制や環境を整備し、積極的な活用を促進する。 ②生徒実行委員会を活用し、生徒の活躍の場面を増やす。	①日程や時間設定などの支援方法や活動場所を工夫することで、活用する生徒を増やすことができたか。 ②行事ごとの振り返りを実施、検証することで、生徒のニーズにあった取り組みとなったか。
進路指導・支援 面談や履修指導を充実させ、入学から卒業までを見通した支援体制を構築する。	継続的なキャリアプランを策定し、チューター制度の活用やキャリアガイダンスの充実を図る。	キャリアプランの策定ができたか。キャリアガイダンスの内容や方法を工夫することができたか。
地域等との協働 学校運営協議会（県川コミュニティ・スクール）の運営方法を確立し、その活用を推進する。情報発信を積極的に行う。	学校運営協議会の役割や内容を明確にし、3部会の連携を図る。地域に対する情報発信の充実を図る。	学校運営協議会の役割や内容を明確にし、3部会の連携を図ることができたか。適切な情報発信を行えたか。
学校管理・学校運営 ①事故防止を徹底する。HPや学校説明会等を活用して、積極的な情報発信に努める。 ②企画会議を中心として、職員全体がフレキシブルスクールの特性を理解し、全定一体となった学校運営を推進する。	①HP担当者との連絡を密にして、内容の更新を迅速に行う。事故防止会議を計画通りに行う。 ②全日制・定時制の連携や連絡を緊密にする。	①HPの内容の更新を月に2回以上行うことができたか。事故防止を職員全体に繰り返し周知し、その意識が向上したか。 ②全日制・定時制の協働により、業務効率を向上させることができたか。